

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木克宗

事業名：一般国道 349号 月館バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：福島県			
起終点：自：福島県伊達郡川俣町大字飯坂 至：福島県伊達郡川俣町大字小島		延長：3.4 km			
事業概要 国道349号は茨城県水戸市を起点とし、宮城県柴田郡柴田町に至る延長約25.6 kmの主要な幹線道路であり、広域的な連携・交流を促す重要な路線である。月館バイパスは、幅員狭小区間を解消し安全で円滑な交通の確保を図ることを目的とした、延長3.4 kmの2車線道路である。					
S62年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	S62年度用地着手 H2年度工事着手			
全体事業費	約3.4億円	事業進捗率	6.4%	供用済延長	2.1 km
計画交通量	3,830台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 5.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 9 / 45億円 事業費：8 / 40億円 維持管理費：2 / 4億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 51 / 79億円 走行時間短縮便益：48 / 76億円 走行費用減少便益：3 / 3億円 交通事故減少便益：0 / 0億円	基準年	平成16年
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（県北地域、県中地域生活圏の連携が強化される） ・災害への備え（H8防災点検要対策箇所（落石）の解消が図られる）					
関係する地方公共団体等の意見 国道349号は、地域交流の促進に重要な役割を果たすことが期待されており、根本匠衆議院議員をはじめとする5市16町3村の首長からなる国道349号建設促進期成同盟会より早期整備の要望（平成16年8月3日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 事業を取り巻く環境は特に変化しておらず、事業採択時と同様の効果発現が見込まれる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 これまでに、用地買収が終了し、延長2.1 kmを供用している。残る1.3 km区間については、現在、鳴石トンネルの掘削工事を実施している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成16年度までに用地買収が終了していることから、平成18年度には鳴石トンネルを完成させ、0.5 kmの部分供用を図る予定である。					
施設の構造や工法の変更等 再生路盤材等の利用を積極的に進め、コスト縮減を図っている。					
対応方針 継続					
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。